

病虫害発生予察特殊報 第3号

作物名：スターチス
病名：未定
病原ウイルス：Grapevine Algerian latent virus (GALV)

1 発生確認経過

平成20年3月中旬頃から、東信地域のスターチスで茎葉の黄化・退緑、褐色小斑点、葉先の枯れこみ、萎縮等が認められる被害が発生した。病徴は、これまでにスターチスでの被害が報告されているウイルス病とは明らかに異なっていた。

そのため、県野菜花き試験場において、ウイルスの検出と分離・同定を行ったところ、スターチスでは国内未報告のtombusvirus属のGrapevine Algerian latent virusによる新規のウイルス病であることが判明した。

なお、国内では、2006年に(独)中央農業総合研究センター昆虫等媒介病害研究チームが、千葉県産のツノナスから本ウイルスを分離したことを報告している。

2 病徴等

始め葉に褐色の小斑点が現れる。やがて褐色小斑点が全身に広がり、茎葉の黄化や退緑、葉先の枯れこみ、萎縮等が見られるようになり、商品性は著しく損なわれる。

褐色小斑点の発生様相が、他のウイルスによる病徴とは明らかに異なる。葉焼けや薬害等に類似するが、栽培管理の改善では回復せず、新葉でも同様の症状が発生する場合には本病が疑われる。



図1 スターチス被害株



図2 病徴の拡大



図3 葉の病徴

3 ウイルスの性質

- (1) 本ウイルスは接触伝染又は土壌伝染する難防除の土壌伝染性ウイルスで、感染力は強い。
- (2) 現在までのところ、本ウイルスを媒介する生物（ベクター）の報告はない。

4 宿主範囲

（独）中央農業総合研究センター昆虫等媒介病害研究チームが、GALVツノナス株の宿主範囲を調べるために行った接種試験結果の一部を表1に示した。なお、県野菜花き試験場が、今回分離されたGALVスターチス株をスターチスへの戻し接種した結果、上位葉にえそが生じ、全身感染することが再現された。

表1 GALV-Nf*の宿主範囲（中央農業総合研究センター）

科名	植物	病徴		科名	植物	病徴		
		接種葉/上位葉				接種葉/上位葉		
アカガ科	ホウレンソウ	CS/M		ナス科	トマト	-/-		
	フダンソウ	NL/-			ナス	CL/-		
アブラナ科	ハクサイ	-/-			ツノナス	CS/M		
	ダイコン	-/-			パチニア	CS/M		
キク科	レタス	-/-			キタチトウガラシ	CL/-		
	ヒヤクニチソウ	CL/-			ダチュラ	CL/-		
ウリ科	キュウリ	(CL)/-			マメ科	ササゲ	NL/-	
	パホカホチャ	-/-				インゲンマメ	NL/-	
ヒユ科	センニチコウ	CS/M		ソラマメ		NL/-		
	アケイトウ	CS/M		ハマミズナ科	ツルナ	CL/-		
	ケイトウ	CS/-			ゴマ科	ゴマ	NL/+	

注) NL：えそ CL：退緑 CS：退緑斑点 M：モザイク

-：感染なし +：無病徴感染

※ GALV-Nf：千葉県の子ノナスから分離されたGALV

5 防除対策

- (1) 土壌伝染するので、昆虫媒介性のウイルスとは区別して対策を講じる必要がある。
- (2) 「2 病徴等」に記載したような症状が見られ、本ウイルスの感染が疑われる場合には、地域農業改良普及センター又は県病害虫防除所に相談する。
- (3) 本病が疑われる株に用いた鉢等は、そのまま健全株に使用せず、洗浄して使用する。
- (4) 発病株は早期に抜き取る。抜き取った発病株をそのまま放置すると土壌が汚染されるので、土中深く埋設するなど、適正に処分する。
- (5) 発病ほ場では、連作を避ける。

長野県病害虫防除所
 担当：原 孝章（所長）
 若林秀忠、小林長生（担当）
 TEL：026-248-6471（直通）
 FAX：026-248-1069

